

未来をみつめ、豊かな学びを創造する 学校図書館

～学校図書館教育における情報活用能力の育成～

徳島県三好郡東みよし町立三加茂中学校

〒779-4702
徳島県三好郡東みよし町西庄字横手51番地

<http://h-miyoshi.ed.jp/mikamo/>

1. はじめに

今日、情報化やグローバル化が急速に進展し、めまぐるしく変化する社会の中であって、子どもたちがその変化に対応していくための「生きる力」をはぐくむことはますます重要になってきている。今の子どもは、知徳体のバランスのとれた力に加えて、これからの知識基盤社会を生き抜くために、たえず新しい知識を得ながら生涯にわたって自分で自分を育てていく自己学習力を身につけることが必要になる。

学校図書館は「読書センター」と「学習・情報センター」との機能を持ち、これからの学校教育における中核的な役割を担っている。さまざまな情報メディアが発達した現代の高度情報化社会では、インターネットの普及により情報過多の状況にある。その中から必要な情報を主体的に収集・整理・判断・発信することのできる情報活用能力の育成をめざすとともに、ものの見方、感じ方、考える力を育て、豊かな感性をはぐくむために学校図書館が活用されなければならない。

そこで、本校では研究課題を「未来を見つめ、豊かな学びを創造する学校図書館～学校図書館教育における情報活用能力の育成～」と設定した。「未来を見つめ、豊かな学びを創造する」学校図書館とは、変化の激しい現代社会で、自立して生きていく力を身につけた子どもを育てる学校図書館である。そのために情報活用能力を養い、思考力、判断力、表現力を育て、子どもたちの情操や豊かな感性をはぐくむ学校図書館を目指したいと考えた。また、図書館を通して情報活用能力を身につけ、課題を解決できる生徒の育成をはかりたい。各教科の授業で資料の収集・選択の方法や、情報の比較検討・整理の仕方を身につけ、学んだことを創造的に発信して相互伝達しながら学習活動を深めたい。

以上のことから、研究課題「未来を見つめ、豊かな学びを創造する学校図書館」を具現化するために、以下の研究実践を行った。

2. 学校情報化の実態と研究の推進計画

本校の学校情報化のレベルは、パナソニック教育財団の学校情報化診断システムによると全国平均値を下まわる値であった。教員によるICT活用では、町教育委員会が設定した公務支援システムにより、校務の情報化が進んでいる。しかしながら、生徒に対する情報教育や各教科等の指導におけるICT活用は、一部の教員しか取り組めていない現状があった。



一方、生徒によるICT活用では、パソコン室にデスクトップ型PCが36台配置されているが、総合的な学習や特別活動など、学年単位で学習活動を行う場合には、十分な環境とは言えない。また、活動場所もパソコン室のみに限られる。

そこで、「学習・情報センター」としての機能を持つ学校図書館において、タブレット型PCを複数台配置することによって、生徒の学習の場と機会を広げることが可能になると考えた。

また、本校の学校図書館は町立図書館と同じ建物の上下階にあり、生徒は普段から二種類の図書館を利用している。町立図書館は公共図書館として「とくしま図書館ネットワークシステム」に加入しており、資料連携システムも構築されている。



このような背景から、「つながる」ことのできる学校図書館で、図書資料とインターネットの二種類の情報を活用する力を育てることで、生徒の課題解決学習の進化がはかれると仮定した。

3. 研究の内容・経過

(1) タブレット型PC導入の環境整備と校内研修

タブレット型PCの導入にあたってまず検討されたのが、どのようなタイプの機器を選択するかという課題である。現在、タブレット型端末はさまざまなタイプが発売されている。生徒が利用する学習場面を想定して、必要とされる機能やソフトを使用できる Microsoft SurfaceRT（タッチカバー付き）を導入することになった。



同時に、無線LANが使用できるように校内のインターネット環境も整える必要があった。本校では各教室にインターネットの有線LANが設置されており、この回線を使ってアクセスポイント経由でインターネット回線に接続することにした。無線LANになると、セキュリティ面にも配慮が必要である。ICT支援員の協力を得て、許可されていない端末から校内ネットワークへの不正なアクセスができないように設定した。また、タブレット型PCの管理および充電は職員室で行い、使用記録を残すことにした。



これらの準備を整えて、職員研修としてタブレット型PCの活用指導力向上研修を行った。タブレット型PCを使用するのは初めてという教員も多く、使い慣れたデスクトップ型PCとの違いにとまどいながら、学習に活用するソフトの操作方法や、インターネット情報の活用と著作権の問題についても研修を深めた。



(2) 各教科での具体的な取り組み

①国語科

2年生の古典学習の単元において、「平家物語を読み解く～三好地域に残る平家落人伝説～」という授業を行った。これは第26回四国地区学校図書館研究大会での研究授業である。

三好市祖谷地方に残る平家落人伝説に関して、図書資料とインターネット情報、教員や現地の研究者による映像資料などをもとに情報を収集した。集めた資料をもとにプレゼンテーションソフトで視覚的に工夫された資料を作り、グループごとに発表をした。今なお語り伝えられている平家落人伝説の情報を多方面から収集することで、そこに込められた人々の思いに共感することができ、生徒たちは古典学習の理解を深めることができた。



②特別活動

3年生の学級活動では、「心に響く言葉を集めよう～とっておきの言葉をあなたに～」という授業を行った。この学習では、とくしま図書館ネットワークシステムを利用して県立図書館にレファレンスを依頼し、自校の学校図書館では所蔵していない大量の本を幅広い分野から集めることができた。

生徒たちは、読んだ本の中から心に残る言葉をクラスで伝えあう際に、実物投影機を使って出典となる本と、そこから抜き出した言葉を提示した。一冊しかない本を拡大投影してクラス全体で共有しあうことによって、著者の思いや自分が共感した感想を話し合うことができた。



③総合的な学習の時間

各学年の総合的な学習の時間では、調べ学習が中心に行われ、ICT機器を活用する場面も多い。



2年生では「伝統芸能」について調べる際に、まず図書資料とインターネット情報で情報を収集した。

その後、地域に根づく伝統芸能についての聞き取り学習を行った。生徒はタブレット型PCを携え、インタビューや芸能の様子を許可を得て静止画と動画で記録した。





また、「職業調べ」の学習においては、自分の興味のある職業について調べたことをまとめ、ポスターセッションの形態で発表会を行った。その時に掲示する資料は、文章だけでなく、図表やグラフを自ら作成し、限られたプレゼン時間の中で分かりやすく提示する工夫をした。



1年生は、福祉体験学習で訪問した福祉関連施設での経験をもとにプレゼンテーション資料を作成し、学年全体で伝えあった。それぞれに異なる福祉施設で体験学習をした生徒たちは、体験学習の様子を写真や文章で整理して振り返ることで、社会福祉の意味や大切さを理解することができた。



また、体験から派生した福祉に関する新たな疑問について、図書資料やインターネット情報から情報を集め、より広い視点から課題を追究して、学習を深めることができた。



4. 研究の成果と課題

- ・学校図書館教育における情報活用能力の育成を目指して、タブレット型PCを新たに導入したことにより、教科指導においてICT機器を利活用できる機会が増えた。
- ・生徒のICTを活用した学習への意欲・関心は高く、「もっとタブレット型PCを使用した授業がしたい」との声が聞かれた。
- ・生徒は図書資料とインターネット情報のそれぞれの長所と短所を感じながら、情報の収集や比較検討による選択と整理の仕方、さらに効果的に表現する方法を身につけることができた。
- ・タブレット型PCを利用することで、デジタルカメラやビデオよりも手軽に映像情報を記録し、活用することができた。
- ・情報教育の全体計画や年間指導計画の見直しをはかり、各教科においてICTを活用する単元や教材の開発を行う必要がある。



5. おわりに

今後、一般社会における情報通信機器の状況の変化に伴う対応は、学校教育現場においてもさけて通れない課題になってくるであろう。とくにモバイル端末の発展は著しいものがあり、他のICTと上手く連動させながらネットワークモラルの指導も含めて、生徒の学習場面での効果的な利活用方法を模索する必要があるだろう。